

子育てについて



子育てに関することわざには多くのものがあり、そこに子育ての普遍性と多様性を感じることができます。私たちがいまでも耳にする、「子に過ぎたる宝なし」、「這えば立て、立てば歩めの親心」、といったものは、子どもの大切さ、子育てをする側の期待の大きさを伝えるものだと考えられます。一方、「蛙の子は蛙」、「鳶が鷹を生む」、といったことわざは、どんなに頑張っても変わらないこともある、思いがけない才能が開花することがある、といった意味から、子育てに対する過剰な期待を戒め、また期待する喜びも表したもののようです。また、子育てはその地域の歴史や時代の影響を受けてきました。そのため、正しい子育て、というものは存在せず、親が最善と考えるものを、その時に選べるものの中から選択しているのかもしれません。

それでは子育てをしながら何を選べばよいのでしょうか。SNS やブログで自分が必要とする知識を得ることは、今では当たり前のように行われています。これらの多くは、自分が必要とする情報を自分たちの目線から、また友達などの目

線から得ることができる便利なものです。個人の目で見た子育てには、それなりの経験と重みがあると思います。しかしそこには、簡単に発信できる手軽さと不確かさとが同居していることも少なくないようです。自分が知りたいと思う知識だけを得てしまう偏りも気になります。これらのメディアとともにぜひ手に入れていただきたいのが、専門家の目から見た子育てに関する情報です。小児科の専門医師たちは、ひとりひとり子どもたちを長い時間をかけて見守ると同時に、多くの子どもたちのなかで何が標準でどこからが心配なのかを理解しています。多くの子どもたちの成長、発達、病気などを見てきた小児科医が伝えたいと考えている育児の情報を、この「わかりやすい育児メモ」から取り入れてみてください。

子どもには無限の可能性があるように思いますが、わが身を振り返ると、そのほんの一部が世の中の役に立ち、人生を豊かにしてきたに過ぎないように感じています。それでも心を込めて育て、思いがけない才能を楽しみにして、「育児メモ」を活用しながら子育ての楽しみを見つけていただきたいと思います。

中村 公俊